

現地実行委員会

まちから村からの連帯で 一人ぼっちの高齢者をなくそう

第39回日本高齢者大会 in おおさか

大会成功のための推進ニュース

現地実行委員会事務局

事務局長 小寺重光

第3号

2026. 4. 30

〒530-0041 大阪市北区天神橋1-13-15 大阪高齢期運動連絡会（日本年金者組合大阪府本部内）

日本高齢者大会現地実行委員会 TEL06-6354-7207 FAX06-6354-7746

メールアドレス：daikouren@cc.wakwak.com

憲法改悪を許さず、平和、くらし、人権を守りぬく共同を広げよう

11・11 大阪国際会議場で会いましょう

記念講演（対話形式）

青木 理氏に決定 「平和と人権を語る」

青木さんの最近の著書と3人の推薦のことばを紹介します
百年の挽歌 原発、戦争、美しい村（集英社）

2026/1/26 青木 理著 2200円（税込み）

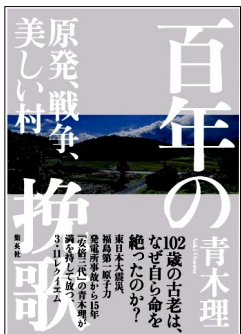
102歳の古老は、なぜ自ら命を絶ったのか？東日本大震災、福島第一原子力発電所事故から15年『安倍三代』の青木 理が満を持して放つ、3・11レクイエム。

◆推薦◆「この本は、ひとつの村の物語であり、同時にこの国の百年の記録である」内田樹氏 「『この風景は私』と言えるほど土と人が結びついた暮らしを、原発事故によって断ち切られた人々の喪失が、本書には刻まれている」

藤原辰史氏「貨幣による豊かさの名のもとに、共同体と暮らしがいかに壊されてきたか。その現実を、本書は静かに突きつけている」田中優子氏

◆著者略歴◆青木 理（あおき おさむ）1966年生まれ。ジャーナリスト、ノンフィクションライター。慶應義塾大学文学部卒業後、共同通信社に入社し、社会部で警視庁などを担当、その後外信部に移ってソウル特派員などを歴任。

2006年に退社後はフリーランスとして、各種の事件や事故、災害、刑事司法、朝鮮半島、メディアなど多岐にわたるテーマの取材・執筆を続ける。主な著書に『安倍三代』（朝日新聞出版）、『日本会議の正体』（平凡社新書）、『紋首開』（講談社）、『日本の公安警察』（講談社現代新書）等、共著に『スノーデン 日本への警告』（集英社新書）等多数。



米のイラン攻撃にペンライトなどで抗議（4/8 梅田）

全国大会の中央実行委員会作成の「大会案内ビラ」が発行されました。その裏面には講座・分科会などの案内を掲載。

憲法改悪を許さず、平和・くらし・人権を守りぬく共同を広げよう

2026年 第39回 **日本高齢者大会** in おおさか

11月10日(火)・11日(水) 大阪府立国際会議場

2026年11月10日(火)
13時00分(予定)～ 学際講座・分科会
大阪府立国際会議場 10階、8階、7階会議室

2026年11月11日(水)
10時30分(予定)～ 全体会 (12時30分終了予定)
大阪府立国際会議場 5階メインホール

●オープニング
●持参「憲法9条・平和への願い」 ●「300人の大合唱」
●基調報告 記念講演

記念講演（対話形式）
ジャーナリスト・ITコメンテーター
青木 理氏
「平和と人権を語る」(仮題)

プロフィール
●あおきおさむ
●元共同通信社記者、元ソウル特派員
●1966年生まれ
●慶應義塾大学文学部卒業
●共同通信社、警視庁、外信部などを歴任

大阪府立国際会議場
1918年大阪府が私有地を没収して建てられた、本物のモダンな建物の歴史を語る。現在も市営の施設として活用されている。

参加費
1日 2500円 2日 5000円
オンライン参加費
1日 1000円 2日 2000円

まちから村からの連帯で ひとりぼっちの高齢者をなくそう

第39回日本高齢者大会 in おおさか 中央実行委員会 〒164-0011 東京都中野区中央5-48-5
TEL. Fax 03-3384-6604 E-mail nihakouren@nifty.com

第39回日本高齢者大会 in おおさか 現地実行委員会 〒530-0041 大阪市北区天神橋1-13-15
大阪高齢期運動連絡会（日本年金者組合大阪府本部内）
TEL. Fax 06-6354-7207 Fax 06-6354-7746 E-mail daikouren@cc.wakwak.com

現地実行委員会 進捗

中央実行委員会の案内ビラを各団体に発送
参加団体の大会参加目標確定（全国）
現地の企画案、中央実行委員会で承認予定
参加団体の大会参加目標確定（近畿）
大会1日目、夜の交流会内容確定
大会2日目、全体会企画確定

大会までのスケジュール

5月～8月

参加応募開始、参加しおり作成、協賛広告募集

9月～10月

要員体制、当日運営、全大会プログラム、移動分科会申し込み、参加者しおり等配布

11月10日～11日 大会当日

大会参加目標（現地実行委員会）近畿2府4県で2日間述べ2700人、オンライン延べ500人

高齢期運動とは

高齢期運動のめざすもの

日本の高齢期運動は、一貫して「まちから村からの連帯で一人ぼっちの高齢者をなくそう」を合言葉にしてきました。日本高齢期運動連絡会が本格的に高齢期運動を始めたのは、30年前の1987年の第一回日本高齢者大会の頃です。

1970年代初めには多くの自治体が高齢者の生活の向上、長寿を目指して老人医療費を無料にし、国も老人医療費を無料（1973年）にしました。しかし、1980年代になり、第二次臨時行政調査会（第二臨調）が健康保険の赤字解消などを理由に社会保障費の削減をかけた、同時に「高齢者の増加は、社会保障収支の悪化を招く」「医療費の増大は国を滅ぼす」などの論議が繰り広げられ老人医療費が有料化（1983年）になりました。

この1980年代の中盤は、家族制度の崩壊や都市部での人間関係の希薄化が社会問題になり始め、社会構造が大きく変わり始めた時期でもありました。それまでも高齢者の就業問題や医療や福祉の問題は取り上げられていましたが、高齢者自身の運動として、高齢者同士が手を結び、自分たちの人生を豊かにしようと立ち上がり始めたのはこの頃からです。

以降一貫して、「ひとりぼっちになることが高齢者の最大の危機」「社会的なつながりを強めて高齢者の生きがいをつくろう」が高齢期運動の基調となっています。さらには、高齢期特有の問題として「寝たきりにならない・認知症にならない」などの健康問題へのとりくみ、学習やサークル、スポーツなどの人生を豊かにし、楽しい老後を過ごす運動にも積極的にとりくんできました。

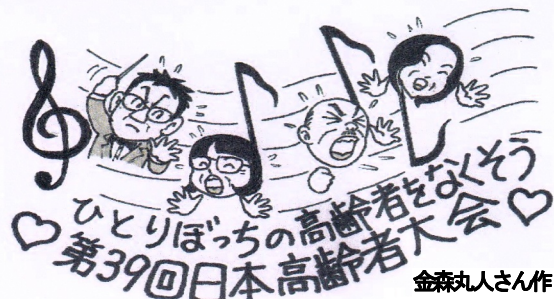
また、それぞれの時期の課題を取り入れ、2000年前後には、老人福祉制度の後退に反対したり、2000年以降は介護保険を充実させることにとりくんだりしてきました。そして、長年にわたり年金の削減や消費税の増税など高齢者の暮らしに直接影響のある課題で反対の運動や改善を求める運動にとりくんでいます。昨今は、戦争体験者、戦後の混乱期を生き抜いてきたものとして、安保法制への反対や、原発再稼働反対など国民的な課題にも積極的にとりくんでいます。

このように高齢期運動は、高齢者が幸せに暮らすために必要な課題に自ら主体的にとりくみ、高齢者自身も成長しながら地域と社会を変えることをめざしています。またその運動を楽しみながらおこなえるよう配慮し合っています。

全国の高齢者パワーが11月10・11日大阪に集まります

オープニング企画

歌い手大募集
300人を超える大合唱



金森丸人さん作

□ 全体会日程(大合唱出演日)

11月11日(水)

大阪国際会議場

現在 全国の仲間と交流する「高齢者大会」ならではの大会企画を現地実行委員会と中央実行委員会で魅力あふれる企画づくりを進めています。

3年前の東京大会から現地歓迎企画「うたごえ合唱」も大阪うたごえ協議会のご協力をいただき、なんと300人の大合唱団を結成します。うたごえはきっと会場をひとつにする特別な時間になるはずです。

地域のうたごえに所属している大高連のみなさんはぜひ仲間を誘って大阪国際会議場大ホールの舞台へ。うたごえに所属していない方も大歓迎です。詳細は現在検討中ですので、続報をお楽しみに。